

NEWS RELEASE 報道関係者各位

2026年8月25日

音楽著作権を「評価できる金融資産」に。 著作権価値評価システム『弁財天（BENZAITEIN）』、 金融機関向け "financial edition" の提供を開始

— 印税キャッシュフローの将来予測・現在価値評価で、音楽ファンド／M&A・事業承継の意思決定を支援 —

株式会社ロイヤリティバンク（本社：東京都千代田区、代表者：坂上晃一）は、音楽著作権の将来価値を評価するシステム『弁財天（BENZAITEIN）』の金融機関・機関投資家向けラインアップ「financial edition」の提供を、2026年8月25日より開始しました。将来の印税収入（キャッシュフロー）を保守・中立・楽観の3シナリオで予測・現在価値化し、音楽ファンドやM&A・事業承継の意思決定を定量的に支援します。

■ 背景

音楽著作権は、景気変動に相対的に強く、長期にわたり安定した収入を生む資産として国内外で注目されています。一方で「将来いくら生むのか」を客観的に評価する手法が確立されておらず、ファンド組成・M&A・事業承継・与信といった金融の現場で、価格の妥当性を第三者に示しにくいという課題がありました。

■ financial edition の特長

1 将来キャッシュフロー予測

5年・10年・最長70年（著作権保護期間）まで、保守／中立／楽観の3シナリオで印税収入を予測。

2 IP資産価値の算定

予測した将来収入から、カタログ・楽曲単位の資産価値を数値化。取得価格やのれんの裏付けに。

3 監査可能なエビデンス

同一入力から同一結果を再現。一過性収入(特異値)の自動除外・二重計上防止でデータ品質を担保。

実証：予測と5年後実績の乖離はわずか-6%（实在カタログ約520曲・匿名化）

■ 今後の展開

- 音楽ファンド／機関投資家向けに、ポートフォリオ・モニタリングと定期再評価サービスを提供。
- M&A・事業承継・相続における第三者評価レポートの提供体制を拡充。
- 基幹システムとのAPI連携、複数カタログ横断評価を順次対応予定。

■ 3つの活用シーン

① 金融機関向け

融資・信託・ファンド事業査定

② 音楽事業者向け

資産評価・金融・担保評価、事業戦略

③ アーティスト向け

資産運用・相続対策・担保評価

■ 製品概要

名称	弁財天（BENZAITEN）／ financial edition
コア技術	JP21302 特許理論 + べき乗則ロングテールモデル
主な機能	将来予測・IP資産価値評価・リスク／伸び代分析・PDFレポート出力
対応データ	JASRAC使用料明細（CSV／PDF／紙スキャンOCR）
提供開始	2026年8月25日

■ 会社概要

社名：株式会社ロイヤリティバンク（Royalty Bank Co., Ltd.） 代表者：坂上 晃一
事業内容：音楽著作権・IPの評価および活用支援
所在地：〒101-0047 東京都千代田区内神田2-2-6 田中ビル3階
URL： <https://www.royaltybank.co.jp/>

本件に関するお問い合わせ先

株式会社ロイヤリティバンク 広報担当：坂上／木村

E-mail： info@royaltybank.jp URL： <https://www.royaltybank.co.jp/>